

2023年度テーマ

イベント参加者同士のコミュニティ作り、継続的フォローによる、将来有望な人材の発掘・育成。



オリジナルイベント 大村湾ワンダーオーシャン調査隊

148名の応募の中から特に熱のある20名を選考。世界的にも珍しい超閉鎖性海域をテーマにしたイベント。大村湾ならではの全国NO1の真珠、水質問題について学んだ。優秀な子はキッズサポーターとして追いかけて取材。

《人材の発掘、交流の活性化》

海の現状・課題について興味関心度の高い人をイベントに参加させるために、応募時に動機や経歴を問うイベント（オリジナルイベント）も実施した。海に関心の高い人が一同に会し行われるイベントでは、参加者同士の交流がチャットアプリLINEを通して活発に行われ、それぞれの分野の学びを共有し、事後も交友が続くなど、想定していたより相乗効果が生まれた。チャットグループにはイベント講師が入っており、都度、子ども達が興味を持つような情報提供、学びの提供を行っている。

《プロジェクトの発展的取り組み》

海ノ民話のまちプロジェクトは長崎県では4作品目の制作が決定となった。県立松浦高校地域創生科では、授業のカリキュラムとして昨年制作した「長者と河太郎」の活用方法を生徒で話し合い、商品化やアニメ上映などの実現に向け動いている。

2023年度成果の一部



黒なまこアイス

オリジナルイベントで学んだ大村湾の魅力、課題、を“黒なまこアイス”のパッケージで表現。大村の特産なまこをアイスの隠し味に。直売店ほかECでも販売。



大村湾WBプロジェクトとの連携

2023年度より発足した大村湾WBプロジェクトと相互連携し、自治体や教育機関のコミュニティを広げた。

2024年度の事業推進テーマは…… 「多様性の海とそれを支えるDX化」!

長崎県は、広大な大陸棚を有する東シナ海、日本海を繋ぐ対馬海峡、有明海の干潟、大村湾を代表する閉鎖的な内湾など、世界にある様々な種類の海が一通り揃っていることから、世界の海の縮図ともいわれている。それ故に、世界中で起こっている魚の問題、資源の問題、環境の問題が長崎の海にも差し迫ってきている。しかしながら県民には長崎が多様な海に恵まれていることを始め、それぞれの海でどのような変化が起こっているのかが周知されていない。また、それらの課題解決のため県内の大学や企業が進める最新の海洋DXについても学ぶ機会に恵まれていない。長崎県の海の多様性を学ぶことで、世界の海洋への興味・関心を高め、海に関わる人材を増やすことを目的に、行政や教育機関、地元企業と連携して体験イベント、各種メディア、ウェブなどの媒体を通して海で今、何が起こっているのを訴求していく。身近な海の現状、課題を学ぶことで、海の未来を変える為に行動できる人々を増やし、繋いでいきたい。